



不明な発信者をスクリーニングする

iPhoneでは、発信者不明の着信をスクリーニング（選別）することができます。相手に名前と用件を尋ねたり、留守番電話に転送したりできるので、内容を確認したうえで応答するかを決められます。

不明な発信者に通話の理由を尋ねる

- ① ホーム画面で「設定」→「アプリ」→「電話」の順にタップします。



- ② 「不明な発信者をスクリーニング」の「通話の理由を尋ねる」をタップします。



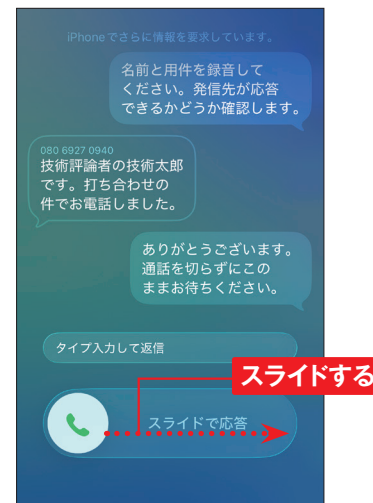
- ③ 連絡先に保存されていない電話番号から着信があると、「通話をスクリーニング中」と表示され、着信音は鳴りません。



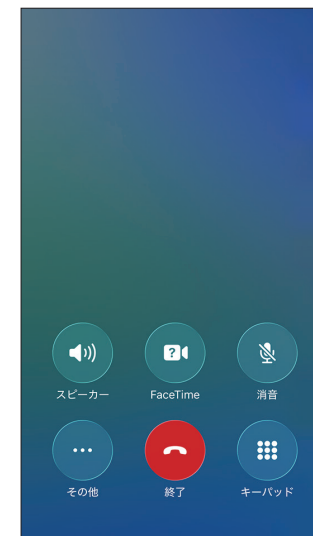
MEMO 発信者側には音声で案内される

スクリーニングが有効になっていると、発信者側には自動音声で「名前と用件を録音してください。発信先が応答できるかどうか確認します。」と案内されます。

- ④ 発信者が名前と用件を録音すると着信音が鳴り、録音内容が表示されます。着信に応答する場合は、📞を右方向にスライドします。



- ⑤ 通話が開始されます。



不明な発信者の着信を消音にする

- ① P.52手順②の画面で「不明な発信者をスクリーニング」の「消音」をタップします。



- ② 連絡先に保存されていない電話番号から着信があっても着信音は鳴らず、留守番電話に表示されます（P.48参照）。



写真の中の邪魔なものを消す

- 1 「写真」アプリで削除したい対象物が写り込んでいる写真を表示し、 をタップします。



- 2 「クリーンアップ」をタップします。



- 3 削除したい対象物を円で囲んで識別させます。なぞったりタップしたりすることでも識別が可能です。



- 4 対象物が削除され、AIで周辺の背景が補正されます。 をタップして保存します。



MEMO 写真から対象物を抜き出す

写真を表示して抜き出したい対象物をタッチすると、自動で抜き出しが完了し、対象物の輪郭が光ります。そのまま指を離さずにドラッグすると、対象物を抜き出していることが確認できます。指を離すと表示されるメニューから、抜き出した写真の操作を選択が可能です。たとえば「コピー」をタップするとメモやメールなどに貼り付けることができ、「共有...」をタップすると画像の保存やプリントなどができます。

動画を編集する

- 1 「写真」アプリで編集したい動画を表示し、画面下部の をタップします。



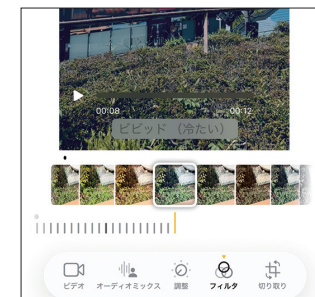
- 2 フレームの両端をそれぞれドラッグすると、動画の不要な箇所を削除することができます。黄色で囲まれた部分が動画ファイルとして残ります。「調整」をタップします。



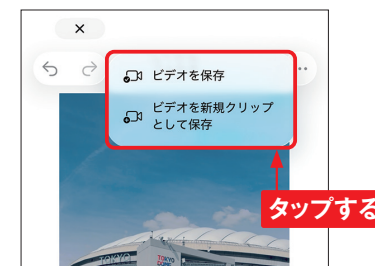
- 3 動画も写真の編集 (P.152 ~ 153参照) と同様の補正ができます。ここでは「フィルタ」をタップします。



- 4 フィルタをあとから設定することができます。動画をタップするとフィルタをかける前のオリジナルの動画を確認することができます。



- 5  をタップし、「ビデオを保存」または「ビデオを新規クリップとして保存」をタップすると動画が保存されます。





プレビューを利用する

「プレビュー」アプリでは、PDFの閲覧や注釈の挿入、書類のスキャンなどができます。スクリーンショット（Sec.81参照）をそのまま「プレビュー」アプリで編集するという使い方も可能です。

PDFを表示する

- ホーム画面で「プレビュー」をタップします。初回起動時は、画面の指示に従って操作します。



- 「ブラウズ」をタップし、<を2回タップして、「場所」からPDFが保存されているフォルダを表示したら、PDFファイルをタップします。

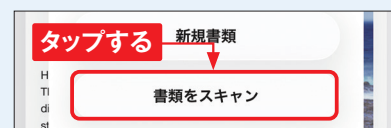


- PDFが表示されます。



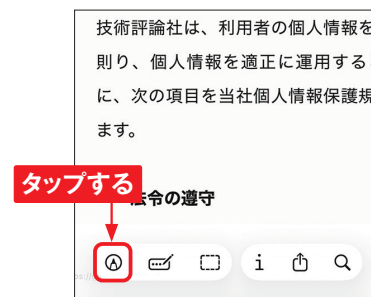
MEMO 書類をスキャンする

「プレビュー」アプリを起動した画面で「書類をスキャン」をタップすると、カメラが起動し、iPhoneのファインダーにスキャンしたい書類や写真を写すと自動認識されて取り込まれ、📌をタップすることで保存できます。



PDFに注釈を入れる

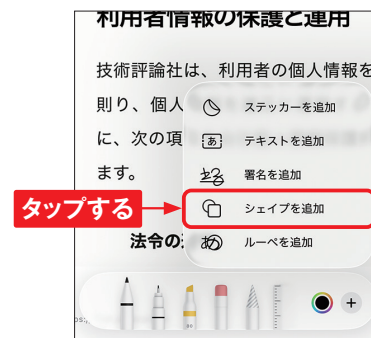
- P.178手順③の画面でⒶをタップします。



- マークアップツールバーが表示されます。ペンやマーカーを使うと、PDFにフリーハンドで注釈を入れます。+をタップします。



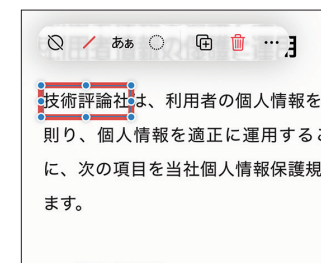
- 利用したいツールをタップして選択します。ここでは「シェイプを追加」をタップします。



- 挿入する形をタップして選択し、挿入したい場所にドラッグします。



- シェイプが選択されているときは、塗りつぶしの色や枠線の色などを設定できます。



MEMO テキストにハイライトを追加する

PDF内の文字を選択した状態で、「[ハイライト] または → [ハイライト]」の順にタップすると、テキストにハイライトが追加されます。カラーや下線、取り消し線の変更も可能です。





Apple Payで タッチ決済を利用する

Apple Payは、Appleの提供する電子決済サービスです。Suicaやクレジットカードを登録しておくと、交通機関を利用するときや、店舗で買い物をするときにスムーズに支払いができます。

「ウォレット」アプリにクレジットカードを登録する

- ① ホーム画面で「ウォレット」をタップします。初回起動時は、画面の案内に従って操作します。



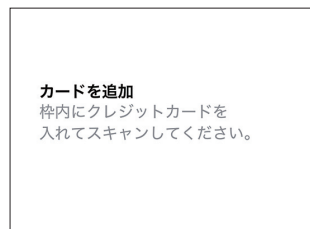
- ② 「+」または「Apple Payを始めましょう」の「追加」をタップします。



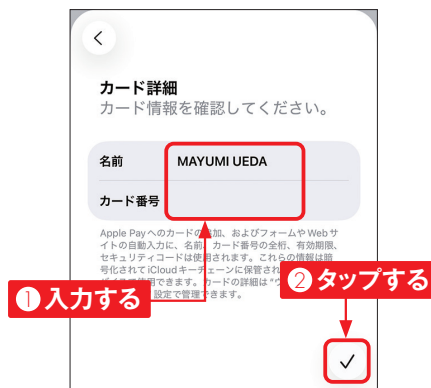
- ③ 「クレジットカードなど」をタップします。



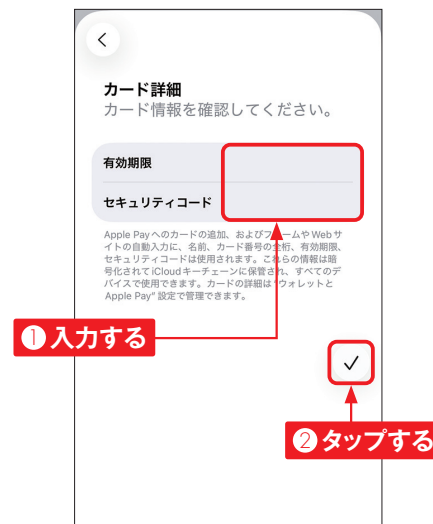
- ④ 「続ける」をタップし、iPhoneのファインダーに登録したいカードを写してクレジットカードに印字された情報を読み取ります。



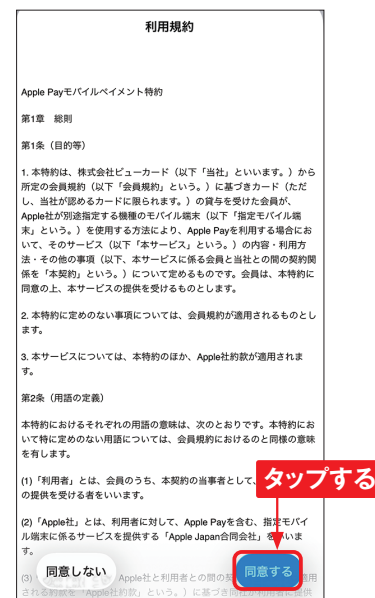
- ⑤ 「カード詳細」画面で「名前」と「カード番号」が正しく入力されていることを確認し、空欄や間違っている場合は入力して✓をタップします。



- ⑥ 「有効期限」と「セキュリティコード」が正しく入力されていることを確認し、空欄や間違っている場合は入力して✓をタップします。



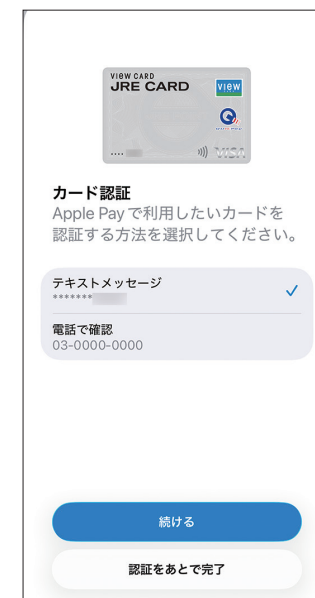
- ⑦ 「利用規約」画面が表示されたら、内容を確認し、「同意する」をタップします。



- ⑧ 「完了」をタップします。



- ⑨ 「カード認証」画面が表示されたら、画面の指示に従って認証を行います。



音声でiPhoneを操作する



音声でiPhoneを操作できる機能「Siri」を使ってみましょう。iPhoneに向かって操作してほしいことを話しかけると、内容に合わせた返答や操作をしてくれます。

Siriを使ってできること

SiriはiPhoneに搭載された人工知能アシスタントです。サイドボタンを長押ししてSiriを起動し、Siriに向かって話しかけると、リマインダーの設定や周囲のレストランの検索、流れている音楽の曲名を表示してくれるなど、さまざまな用事をこなしてくれます。「Hey Siri」機能をオンにすれば、iPhoneに「Hey Siri」（ヘイシリ）と話しかけるだけでSiriを起動できるようになります。アプリを利用するタイミングなどを学習して、次に行うことを予測し、さまざまな提案を行ってくれます。2025年4月に日本語での対応を開始したApple IntelligenceによってSiriも機能が改善され、Apple Intelligenceを有効にすると、ChatGPTと統合して画面内の情報を認識した回答ができたり、テキストでSiriに指示ができたりします。また、将来的には複数のアプリを横断したより複雑な操作の実行や、より自然な言語での会話が可能になるよう開発が進められています。

「Hey Siri」を設定
「Hey Siri」と話しかけたときに、Siriがあなたの声を認識します。

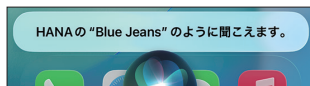


「Hey Siri」機能をオンにする際に、自分の声だけを認識するように設定できます。

「Siriからの提案」では、使用者の行動を予想し、使う時間帯や場所に合わせたアプリなどを表示してくれます。

この写真には、主にピンク色のユリ（オリエンタルリリー）と、同系色のカーネーションや八重咲きのチューリップのような花が使われています。花束や

Apple Intelligenceを有効にしていると、Siriに「写真の花の名前を教えてください」と話しかけると、ChatGPTと連携して調べてくれます。



聴いている曲の曲名がわからない場合は、Siriに「今流れている曲の曲名を教えてください」と話しかけ、曲を聴かせると曲名を教えてください。

Siriの設定を確認する

① ホーム画面で[設定]をタップします。



② [Apple IntelligenceとSiri] をタップします。



③ [Siriに話しかける/タイプ入力する] をタップします。



④ 「サイドボタンを押してSiriを使用」がオフになっている場合はタップして、「[Siriを有効にする]」をタップし、Siriの声を選択して、「完了」をタップします。



MEMO Siriの位置情報をオンにする

現在地の天気を調べるなど、Siriで位置情報に関連した機能を利用する場合は、ホーム画面で[設定] → [プライバシーとセキュリティ] → [位置情報サービス]の順にタップします。[Siri]をタップして、[このアプリの使用]をタップしてチェックを付けます。





作文ツールを利用する

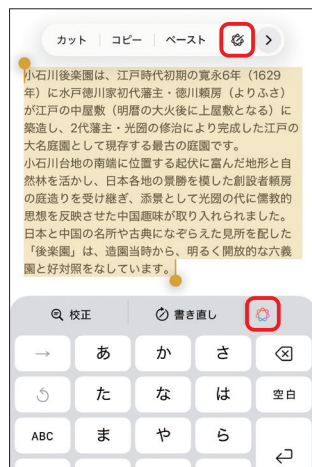
Apple Intelligence の機能の 1 つである「作文ツール」では、文章を入力するさまざまなシーンでテキストの操作を行えます。目的に合わせて機能を使い分けましょう。

作文ツールの機能と利用できる環境

「作文ツール」は、文章の校正や要約、異なる言い回しの文章の作成、ChatGPT（P.204 左の MEMO 参照）による文章の生成などが行える機能です。アプリや Web サイトを問わず、文章を入力するほとんどの環境で利用が可能で、対象の文章に応じて最適な操作を選択できます。

完成度の高い文章を作成したいとき、メールや報告書の文面を整えたいとき、本やレポートの要点をすぐに把握したいとき、SNS の投稿や創作文の表現を工夫したいときなど、ビジネスからプライベートまで、あらゆるシーンで活用できる便利なツールとなっています。

なお、作文ツールは Apple Intelligence をオンにすることで利用できます（P.11 参照）。



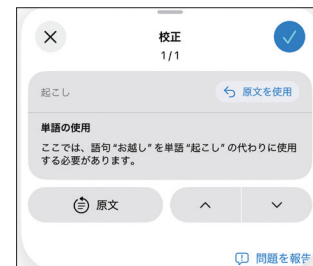
作文ツールは、文章の入力画面や文章の閲覧画面でまたは「作文ツール」をタップすることで起動できます。



校正、書き直し、要約、要点など、文章を作成したり閲覧したりする画面で活躍する機能が利用できます。

作文ツールを利用する

● 校正



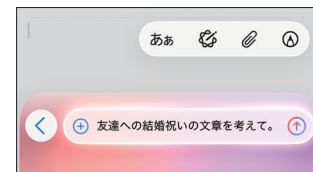
文章内の誤字脱字をチェックできます。

● 要約／要点



長文を要約したり要約をまとめたりできます。

● 作文



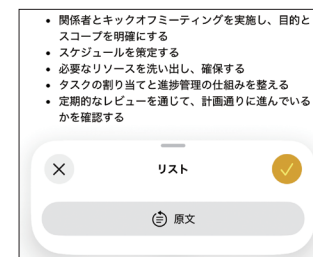
入力した指示をもとに文章を生成できます。なお、「作文」の利用は ChatGPT との連携が必要です。初回は「作文」をタップし、画面の指示に従って連携を行いましょう。

● 書き直し



すべての文章を書き直しできます。

● リスト／表



文章をリストにしたり表にしたりできます。

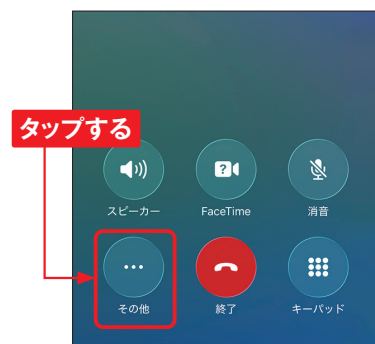


音声の録音と文字起こし、要約を利用する

旅行の計画や仕事の打ち合わせなど、大切な通話内容は録音して、あとから文字で確認できるようにしましょう。文字起こしされた通話内容は要約も可能で、すぐに会話のポイントを把握できます。

通話を録音する

- ① 「電話」アプリの通話画面（P.38 参照）で「その他」をタップします。



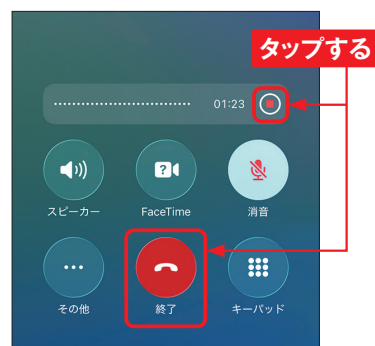
- ② 「通話録音」（初回はこのあと「続ける」）をタップします。



- ③ カウントダウンのあと、通話の録音が始まります。



- ④ または「終了」をタップすると、録音が完了します。



通話を文字起こしして要約する

- ① 通話の録音を確認するには、「メモ」アプリの「通話録音」をタップします。「メモ」画面が表示された場合は、画面左上の「<」をタップし、「通話録音」をタップします。



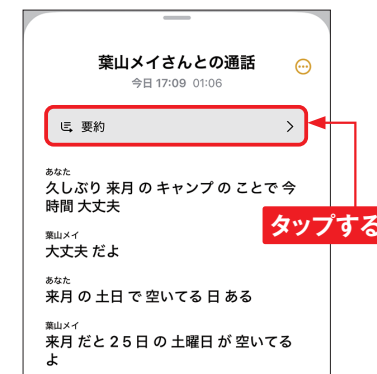
- ② 確認したい通話の録音をタップします。



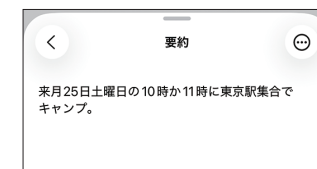
- ③ 通話の録音の概要をタップします。



- ④ 通話の文字起こしが表示されます。画面上部の「要約」をタップします。

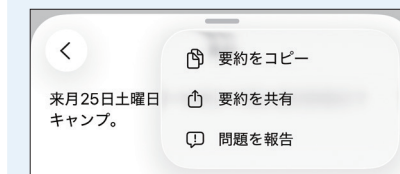


- ⑤ 通話の要約が表示されます。



MEMO 要約を操作する

手順⑤の画面で⊗をタップすると、要約のコピーや共有の操作を選択できます。カレンダーのメモに登録したり、通話相手に要約内容を共有したりしたいときに利用しましょう。





画像を生成する

「Playground」アプリを利用すると、文字の説明をもとに画像を生成することができます。画像のほか、メッセージなどで利用できるジェン文字の生成も可能です。

「Playground」アプリを利用する

- 1 ホーム画面で「Playground」（初回起動時はこのあと「続ける」、次回以降はこのあと「新規画像」）をタップします。



- 2 画像の説明の入力フィールドをタップします。



- 3 生成したい画像の説明を入力し、（またはキーボードの）をタップします。



MEMO 画像のスタイルを選択する

作成される画像のスタイルはデフォルトでは「アニメ」となっていますが、手順②画面上部の「スタイル」から好みのスタイルを選択することもできます。また、画像が生成されたあとにスタイルを変更することも可能です。



- 4 しばらくすると画像が生成されます。画像を左右にスワイプすると、ほかのバリエーションが表示されます。



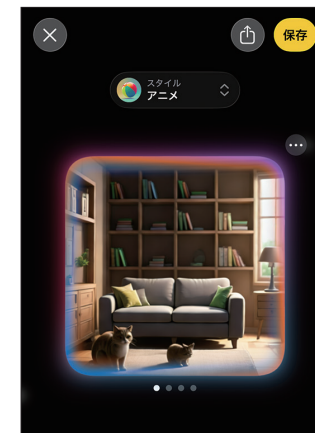
- 5 新たな要素を追加したい場合は画像をタップし、画像の説明の入力フィールドに追加の説明を入力して、（またはキーボードの）をタップします。



MEMO 生成した画像を保存する

気に入った画像が生成されたら、画面右上の「保存」をタップして保存しましょう。保存された画像は「Playground」アプリのライブラリに表示されます。iPhoneに画像を保存したい場合は、画面右上の→「画像を保存」の順にタップします。

- 6 新たな要素が追加された画像が生成されます。なお、このときに生成される画像は、先に生成された画像とは少し異なるものになります。先に生成された画像のまま一部を微調整するなどの変更はできません。



- 7 要素を削除して手順④のバリエーションに戻りたい場合は、生成された画像をタップし、削除したい要素のをタップします。



被写体や画面内の情報を調べる



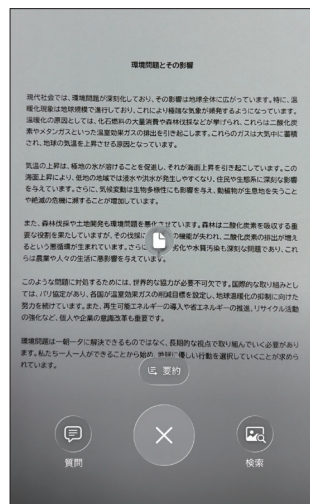
Apple Intelligence の機能の 1 つである「ビジュアルインテリジェンス」では、カメラに写った対象についてさまざまな処理を行えます。文章の要約や翻訳、読み上げ、画像検索など、目的に応じて操作を使い分けましょう。

ビジュアルインテリジェンスの機能

「ビジュアルインテリジェンス」は、カメラを向けた対象物をリアルタイムで視覚的に解析し、最適なアクションを提案してくれる機能です。解析結果によってさまざまなアプリや機能にすばやくアクセスができるため、目的の操作をスムーズに行えます。たとえば、長文のテキストが書かれた文書や本を写すと要約や読み上げ、名刺を写すと通話の発信やメールの作成、パンフレットを写すと Web サイトへのアクセスを促してくれます。また、カメラに写したもののだけでなく、スクリーンショットで保存された画面の情報を解析することも可能です。



カメラコントロール (P.16参照) を長押しし、初回起動時は「続ける」をタップします。以降はカメラコントロールを長押しすることで、ビジュアルインテリジェンスを起動できます。



「質問」をタップすると、ビジュアルインテリジェンスのカメラに写したもの（またはスクリーンショット）を解析し、質問できるようになります。

ポスターの日付からカレンダーの予定を作成する

① ビジュアルインテリジェンスを起動し、日時の情報が含まれているポスターをカメラに写して、スクリーンショットを撮影します (Sec.81 参照)。



② フルスクリーンプレビュー画面で、ポスターの時間部分をタッチします。



③ 表示されるメニューから「“カレンダー”に追加」をタップします。



MEMO 対象物を解析して操作する

対象物によっては、手順①の画面で🔍をタップすることでリンクや電話番号などを解析し、それぞれに適したアクションを提案してくれます。なお、この操作でのカレンダーへの予定の追加は、日本語は未対応となっています。





Application

アクションボタンを設定する

iPhoneには、さまざまな操作を設定できる「アクションボタン」が搭載されています。アクションボタンを長押ししたときに実行する機能は、カスタマイズすることができます。

アクションボタンの設定を変更する

- ① ホーム画面で[設定]をタップします。



- ② [アクションボタン] をタップします。



- ③ 左右にスワイプすると、アクションボタンのモードを変更できます。ここでは、「拡大鏡」に設定します。



- ④ アクションボタンを長押しすると、「拡大鏡」アプリが起動します。



Application

電力モードを変更する

「適応型電力制御」は、iPhoneの使用状況に合わせてパフォーマンスを調整してバッテリー駆動時間を延ばせる省電力機能です。なお、適応型電力制御は、初期状態でオンになっています。

適応型電力制御を利用する

- ① ホーム画面で[設定]→[バッテリー]の順にタップします。



- ② [電力モード] をタップします。



- ③ 「適応型電力制御」と「適応型電力制御の通知」がオンになっていると、適応型電力制御によって設定が変更されたとき、通知を受け取ることができます。



MEMO 適応型電力制御

「適応型電力制御」は画面の明るさが下がったり、バックグラウンド処理が制限されたりといったパフォーマンスの調整が行われ、1日を通して電力が節約されるしくみです。また、バッテリー残量が20%になると、自動的に「低電力モード」がオンになります。